

# 2 人口減少の負のスパイラルの克服に向けた高知県の取り組み



人口減少の負のスパイラルを克服することが県政における最大の課題です。この克服に向け、「高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略」に、2060年の本県の人口を約55万7千人に踏みとどまらせ、将来的な人口の若返りと人口増への転換を目指すという『高知県人口の将来展望』を掲げて取り組みを全力で進めています。

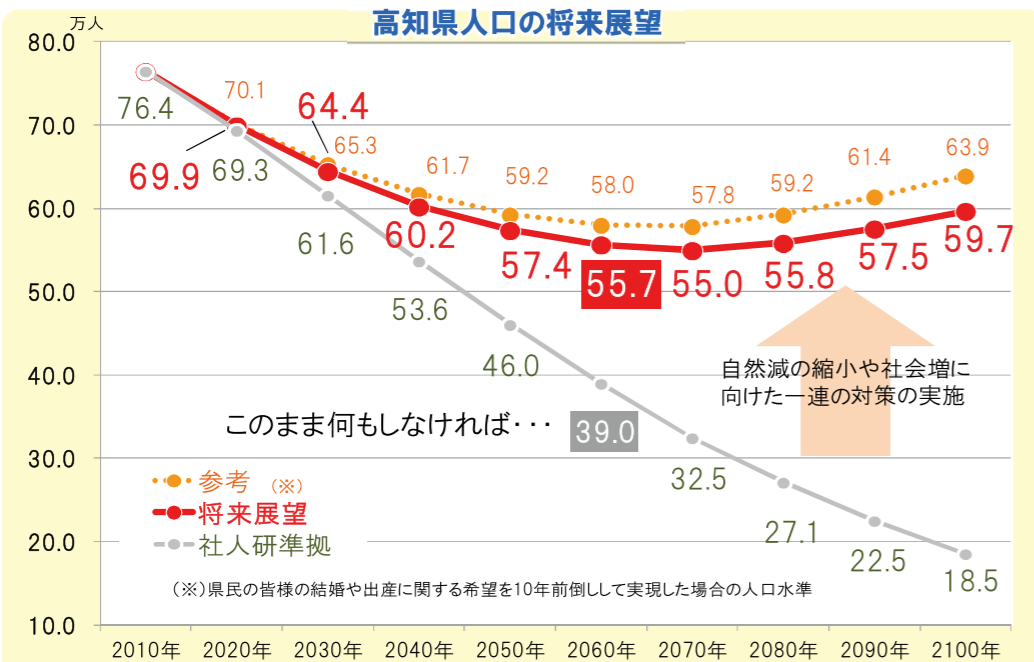
## 人口の増加

《将来展望》

2060年：約557千人

※国の推計の390千人の約140%に相当  
[現状(2015年):728千人]

○人口構造が若返る  
年少人口割合は2020年から、  
生産年齢人口割合は2045年から  
上昇に転じる



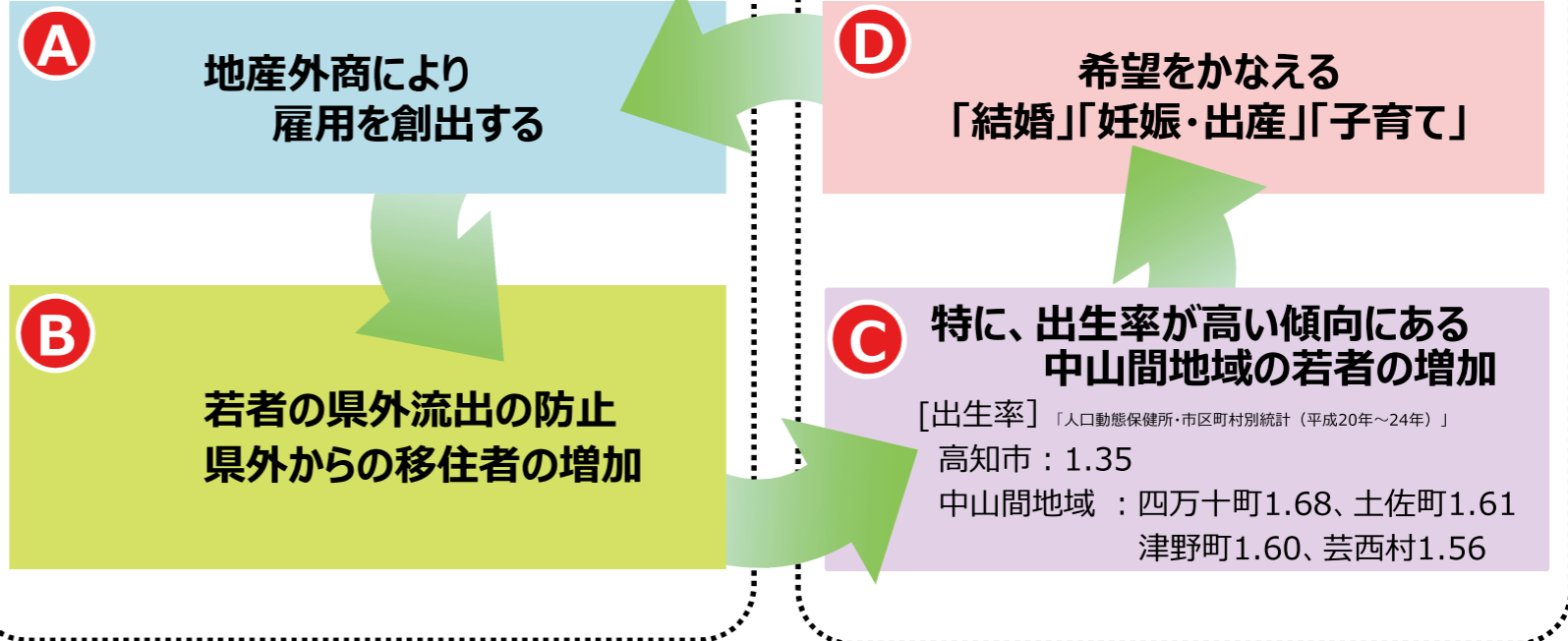
## 若者の定着・増加

《将来展望》2040年：1,000人の社会増  
[現状(2016年度)：1,770人の社会減]

## 出生率の向上

《将来展望》2040年：2.07、2050年：2.27  
[現状(2016年)：1.47]

出典：平成28年人口動態統計月報年計(概数)



## 高知県まち・ひと・しごと創生総合戦略<平成29年度版>の構造



次の4つの「基本目標」の達成に向けた対策を連続的に講じることで、「若者の定着・増加」と「出生率の向上」に向けた好循環を生み出していきます。基本目標1と2は「産業振興計画」により推進します。

### 基本目標1 地産外商により安定した雇用を創出する

**A** ●「地産」の強化 ●「外商」の強化 ●「地産」「外商」の成果を「拡大再生産」につなげる

#### 数値目標

- ・雇用の創出 H28~H31：4,000人
- ・各産業分野における産出額等の増加 etc.) 県外観光客入込数 H31：435万人

#### これまでの成果

- ・雇用の創出 H21~H27：6,139人
- ・雇用保険被保険者数 H21:181千人→H27:192千人 (+11千人)
- ・有効求人倍率 H21.1：0.43倍 → H29.4：1.17倍

これ以外にも、定量的に把握できないものの観光振興や地産外商の拡大による雇用創出が見込まれる

過去最高

### 基本目標2 新しい人の流れをつくる

**B** ●県内高校生等の県内就職の促進 ●県外からの移住促進

#### 数値目標

- ・平成31年に社会増減をゼロにする  
H26:▲1,684人、H27:▲2,265人、H28:▲1,770人

#### 【社会増減の均衡に向けたH31のKPI】 ※( )は現状

- ・高校生の県内就職率 75% (H28.3：63.9%)
- ・専門学生の県内就職率 80% (H28.3：73.6%)
- ・県内大学生の県内就職率 42% (H28.3：32.9%)
- ・県出身県外大学生のUターン就職率 30% (H28.3：16.4%)
- ・県外からの移住者数 1,000組 (H28：683組)

産業振興計画により推進

### 基本目標3 若い世代の「結婚」「妊娠・出産」「子育て」の希望をかなえる、女性の活躍の場を拡大する

- D**
- ライフステージの各段階に応じた切れ目ない少子化対策の推進
  - 女性が多様なライフステージを通して働き続けられる環境づくり

#### 数値目標

- ・平成31年の合計特殊出生率 1.61  
H28:1.47

【目標達成に向けたH31のKPI】 ※( )は現状  
・理想の子どもの数と現実に持たたい子どもの数の上昇と差の縮小 (H27：理想2.45人・現実2.09人)  
・平均初婚年齢の年齢低下 (H27：夫31.3歳、妻29.7歳)  
・高知家の女性しごと応援室における就職率60% (H28：56.8%)  
・ファミリー・サポート・センターの設置市町村数13市町村 (H28：3市)

県民の皆様の希望をかなえるために設定した2050年の2.27の達成に向けた中間目標として設定

### 基本目標4 コンパクトな中心部と小さな拠点との連携により人々の暮らしを守る

- C**
- 中山間地域での小さな拠点(集落活動センター、あったかふれあいセンター)の整備促進
  - コンパクトな中心部と小さな拠点を衛星としたネットワークの形成

#### 数値目標

- ・平成31年度末の集落活動センターの開設数 80カ所 など  
H29.4: 38カ所